

# なんもく 山村ぐらし通信

昨年1月に初めて開催された南牧村移住者の皆さんとの交流会。今年も村内移住者3年未満の方々を対象に第2回として開催され、1年ぶりの再会あり、情報交換ありの楽しいひと時を過ごすことができましたのではないのでしょうか。



カメラマンの腕が良かったのか、みなさんいい顔してました。  
photo by 勤能の仙人オヤジ 清田氏でした。

昨年から始まった移住者のみなさんとの交流会を、今年も2月1日(日)に33名という多くのみなさんの参加をいただき開催させて頂きました。不慣れな準備の中でしたが2回目の交流会も無事に開催する事ができ、会場にはあちこちに笑顔がほころび、移住者・協議会員とも和やかな時間を過ごすこ

とができます。今回は移住に際してのアンケートなども行わせていただき、和やかな中にも積極的にお互いの率直な意見を交換することができ、それぞれに意義のある交流ができたのではないかと感じています。村外から移住されて来た方々には、これまでの生活環境との違いや、南牧独自のしきたりや慣習に戸惑うことが多いこと

とだと思います。移住された方々が南牧の生活の中で日々抱えているかを伺うことにより、どのようなアドバイスや手助けを今後していただける場となるようにとの思いで交流会を始めました。またそれと同時に、この村で生まれ育ち、この地域をながく支え、脈々と伝えて

きた南牧村に住む人々の生活や文化を尊重し、このような交流の機会から南牧の人たちを少しずつでも受け入れていただきたいという思いもあります。片方だけの押し付けではきつと上手くいきません。村民・移住者両者がお互いに受け入れなければいけないところは主張する。そんなお互いが認め合える関係が築いていければ、この交流会が有意義なものだったと感じることができるとは思います。その結果として近年メディアで報道されている高齢化率日本一などのような暗い話題ではなく、明るい南牧の話題を全国に発信できるのではないかと思います。……とまあ、つい熱が入り話が大きくなってしまいました。今回の交流会も参加していただいたみなさんに大変好評いただき、わたしたち協議会員も今後どのような活動をしていけば良いのかというヒントを得ることができたと思います。今後もこのような機会を設け、移住者の方々だけでなくこの村に住む人にとってプラスとなるような活動が微力ながらできれば良いと思っています。今後ともみなさまのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

## 協議会新役員紹介

4月総会を持って新たな役員を選出が行われた山村ぐらし支援協議会。新たに役員として協議会活動の中心となり、なにかとご苦労をお願ひすることになる新役員(執行役員のみ)を簡単に紹介いたします。

- 会長 金田 鎮之
- 副会長 神戸 広
- 理事 中澤 信幸
- 神戸 とみ子
- 佐藤 従基

執行部以外にも会計監査役として2名の監事を置き、協議会メンバーや事務局担当課の協力を頂きながら活動を進めてまいります。



協議会QRコード

協議会HP  
<http://nanmoku.org/>  
古民家バンク情報がサイトに移設されました。

## 26年度1~3月空家問合件数

電話による問合せ34件  
(1月 22件)  
(2月 6件)  
(3月 6件)  
【参考】26年度年間 78件

メール・手紙・FAXでの問合せ31件  
(1月 10件)  
(2月 8件)  
(3月 13件)  
【参考】26年度年間 49件

空き家見学案内10件  
(1月 2件)  
(2月 3件)  
(3月 5件)  
【参考】26年度年間 空き家見学29件  
来村・来庁 35件

## 一筆啓上

27年度がスタート！  
協議会会長より  
淡い色の桜が過ぎ、桃や様々な花が咲き競う4月。南牧山村ぐらし支援協議会の平成27年度総会が役場2階多目的ホールで開催され、平成26年度事業報告と平成27年度事業計画などの説明がされ、すべて承認されました。また、今年度は役員改選が行われ、引き続き私が会長を引き受けることになり、新しい役員も加わった。26年度の活動として、村内空き家物件の調査、山村ぐらし通信やホームページなど広報内容の充実。並びに各種メディア対応、体験民家の利用促進。新しい試みとして、村外各種団体による調査、意見交換、視察の受け入れなども行いました。新年度は引き続き空き家物件の調査及び見学希望者への物件案内なども可能な範囲で協力することになり、情報の整備・協議会ホームページでの「古民家バンク」情報提供な

でも継続してゆくこととなります。移住者や村内外の関係機関との意見交換。更に移住相談会への参加、地域おこし協力隊の支援など内容を深めてゆきたいと思っています。  
前年度を振り返ってみれば、大雪でのイメージが残ったままに始まり、余計にメディアの取材があったような気がします。その結果さらに空き家がクローズアップされ、都市部から中山間地、過疎地へ関わりたいと思う人が増えてきたように思います。先に出た「地域おこし協力隊」もその中の一つで、今年度から村内で3名の隊員がすでに活動を始めており、これを書いている今も村のどこかで村民と一緒に汗をかいてくれている姿が想像されます。この流れをより一層よい形にしていきたいものです。改めまして、今年度も村民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【山村ぐらし支援協議会会長 金田鎮之】

## からがらしたな

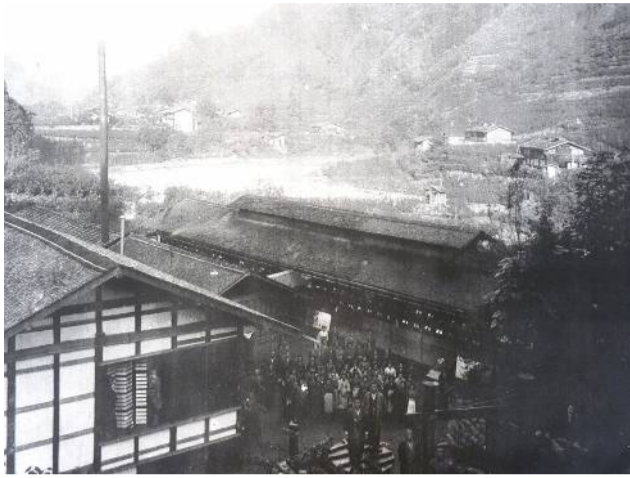
任期を終えて、この村の小・中学校を後にしていつた何人もの先生方とお会いする機会があり、その度に口を揃えるように話してくれらる。『こっちの学校に来てみてつくづく感じるんです。加算されてるんですよ！』再会した先生方がみな口にするので、敵な子育て環境が備わっているのかもしれない。

### ＜協議会からお願い＞

現在 村内に移住を検討している来村者の方に紹介できる空家情報が不足しています。空家所有者の方や情報をお持ちの方からのご理解とご協力をお待ちしております。空家の有効利用にご理解とご協力を！

### タイムマシンなんもく号

～南牧村にもあった製糸場 第2弾！～



奥に見える南牧川。なんだか川幅が広い！



現在の様子。南牧川はどこ？

前号(平成27年2月1日発行)で、「南牧村にあった製糸場」を紹介しましたが、場所がわかったでしょうか？今回は、南牧村の製糸場についても少し調べてみました。南牧村にはかつて、19箇所に工場がありました。尾沢地区に6工場、月形地区に6工場、磐戸地区に7工場あり、一番古いのは、明治14年7月創業の「大日向製糸場返組合」と記されています。【明治43年北甘楽郡工場票台帳(群馬県立文書館蔵による)】さて、今回の写真は、昔の感じを残しつつ、新しい建物がだいぶ建った今昔写真です。製糸場として使用されたのち、教員住宅として使用され、現在の写真の風景となりました。また、大日向山村広場のところは以前、南牧川が悠々と流れ

ていたんですよ！ちよつとビックリです。最後に、「養蚕の歌」というものがありましたので、いくつか紹介したいと思います。『お酒飲むのも着物を着るのも 桑の葉を食ふ虫次第』 この歌をみると、まさしく蚕様が重要だったんだと感じました。そのほか3つほどご紹介。『蚕上手の嫁とりあてて 家の身上も太織縞』 『かはゆがられた蚕も 糸に取られて丸裸』 『蚕仕舞うて金こしらえて 主に二人で旅をする』 以上、南牧村の製糸場第2弾！でした。く仏のヒロシ取材く

### 「ぶらり」なんもく村 in 松沢の大黒天さま



松沢の大黒天さま

「知ってた？甲子園と縁繋がりがあったこと・・・」昔の由来や言い伝え。何処にでも伝統があるもの。伝えていきたい心と心。『ソオ〜ソレ〜ソレ』 「まあ〜〜だ・まだ」 掛け声かけながら拍子木で音頭とり、横笛隊に歩き人。男士は太鼓を背中合わせに担ぎながら練り歩く。新緑の木々に共鳴。



昔から受け継いだお祭りは、南牧村の伝統そのもの。『なんだ坂！こんな坂！』 つと離し立て、上のお宮までご案内。12年に一度のお祭りが緑に映える。 “甲子(きのえね)祭” 地元みんなの笑顔が最高なんです。 大正13年(1924年)、甲子(きのえね)の年に誕生した阪神甲子園球場。90年近くの時を刻み、今も野球男児の夢の舞台。その甲子園の由来と同じで凄いな

です。そのため妙義山 中ノ嶽神社は南牧出身の氏子【野球の神様】として南牧村と縁が深いんです。野球好きは願掛けにお参りしてはいかがですか？松沢堂所にある『大黒天』にもおいでなし。

### 編集後記

文章を使って物事を人に伝えてゆくというのは案外難しいもの。この山村ぐらし通信も早いもので今回が13号となりました。当初は文面がやけに堅苦しく、職業を予想することが容易だったメンバーも、回を重ねるうちに徐々に慣れ、文中

僕は宮城県出身の母と福島県出身の父の間に産まれた横浜育ちの現在35才・長男です。横浜での生活はというと、目的を探すもなかなかみつからず、メリハリのない日常を過ごしていました。ずいぶんと長い間、両親には心配をかけてきてしまいました。自分が自信をもって行っていくことはいつたいた何なんだろうか。若い僕は毎日が葛藤でした。そんな心境の中、とある田舎で「農」に携わるきっかけに恵まれました。両親の故郷、福島県と宮城県にはよく訪れていたこともあり、僕にとつて田舎という環境はそれ程珍しいものではありませんでした。農業を仕事という感覚で味わうことは僕にとつてとてもなく刺激的なことでした。話しを聞く度、作業をしていく度、土を作ることで野菜を作ることと人様に食べて頂けることに興味と感心が湧いていきました。今、僕は南牧村に移住してきてから丸2年が経ち、3年目に入りました。広い家を貸して頂き、広い畑を貸して頂き、トラクターを貸して頂き、ビニールハウ

### 村人(むらびと)紹介

移住歴2年と1ヵ月 大日向地区在住 五十嵐 亮さん

はじめまして。スを寄付して頂き、農業資材を寄付して頂き、新規就農者としてまで扱って頂いております。養鶏のタマゴも美味しいと買って頂けるお客様にも恵まれています。その旨を両親に伝えると、喜んでくれているような声を電話越しに聞くことができます。その度、嗚呼、南牧村に出会うことができ本当に良かったなと深く思っています。そして、テレビや新聞、雑誌の記事にまで取り上げられました。僕のような新参者が、村の話をさせて頂くことには、正直大きな違和感を感じておりますが、僕が住みながら感じている南牧村の良い所を伝えることが出来るならば・・・と思いついて頂いて頂いております。まだまだまだまだ未熟者で、書いて頂いた記事には全然追いつけない身ではありますが、せっかく書いて頂いた記事に無駄にしまわぬ様、一つ一つの喜びを噛み締め、今後の人生を南牧村で生きていきたいと強く思っております。どうか皆様、今後とも宜しくお願い致します。